

日向市図書館複合施設基本構想 概要版

基本構想の策定にあたって

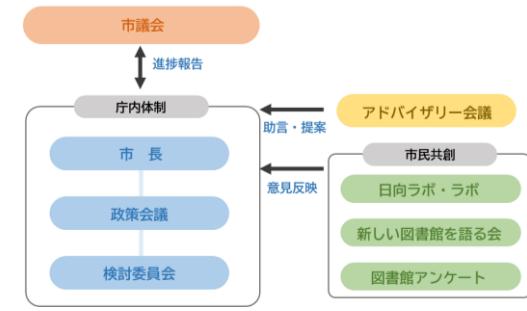
社会環境の変化や施設の老朽化等の状況を踏まえ、日向市は新たな図書館複合施設を計画しています。令和6（2024）年度に策定した基本方針に基づく基本構想では、施設に求められる機能や規模、整備のコンセプトを総合的に整理します。

■ まちづくりと市民参画

日向市は駅や市庁舎整備で培った「共創」の精神と市民参画の文化を継承し、誰もが自分らしく過ごせる多様な居場所づくりを目指します。

策定体制

庁内の検討委員会等に加え、市民が直接参画できる機会を設け、検討を進めてきました。



市民との共創とニーズの把握

対話の場を通じて寄せられた声から、新施設には「居心地の良い居場所」「学びから創造を育む場所」「つながりを発展させる場所・地域の発展の拠点」という要素が期待されていることが分かりました。市民のアイデアをかたちにしなが、日向の未来を共に育む施設の実現を目指します。

日向ラボ・ラボ

市民自らが新しい図書館複合施設で「やってみたいこと」や「ほしい機能」を提案し、そのアイデアを実際に体験・検証できる場。



市民ニーズまとめ



図書館複合施設の基本理念・コンセプト

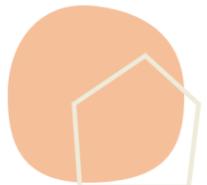
これまでのプロセスを経て、基本理念とコンセプトを整理しました。基本理念では、すべての世代が安心して快適に過ごせる「第三の居場所（サードプレイス）」を掲げ、個々の知性や感性を育み地域全体の活力へつなげます。これを受け、あらゆる世代が安心して自分らしく過ごせる居場所を表現するコンセプトを定めました。これらを基に学びや創造、交流を楽しめる拠点づくりを推進します。

基本理念

学びの種 をまき 創造の芽 を育て 希望の実 を結ぶ

市民のサードプレイス

コンセプト



市民が集まる ひなたリビング

～みんなの学びと創造、未来を育む自由な居場所～



■ 4つの体験

図書館複合施設で生まれる体験を、「出会う」「広げる」「つながる」「くつろぐ」の4つの視点で整理しました。市民の声を継続的に反映し、多様な活動・体験・交流が生まれる場づくりを進めていきます。

出会う

新しい本や人、さまざまな知識と偶然出会い、自身の世界を広げることができます。

広げる

学びや創造の芽を伸ばし、興味やスキルをさらに深めていくことができます。

つながる

世代や地域、さまざまな人や団体がつながり、未来を育む拠点です。

くつろぐ

誰もが安心して自由に過ごせる「第三の居場所（サードプレイス）」です。

図書館複合施設に設ける環境

基本理念及びコンセプトの実現には、**4つの体験を包み込む多様な環境**が必要です。一人で静かに自分と向き合う時間も、誰かとにぎやかに交流する時間も、同じ屋根の下で等しく大切にされる空間を目指し、図書館複合施設が具体的に備えるべき環境のあり方を整理します。

①「ひなた」のような温もりのある環境（空間）

子ども・若者が集まりたくなる「静かすぎない図書館」

自然を感じる「くつろぎ空間」

②「リビング」としての交流・活動環境

親子が安心して過ごせる「子育て支援・遊び場スペース」

学びと実践を支える「創作活動、イベント空間」

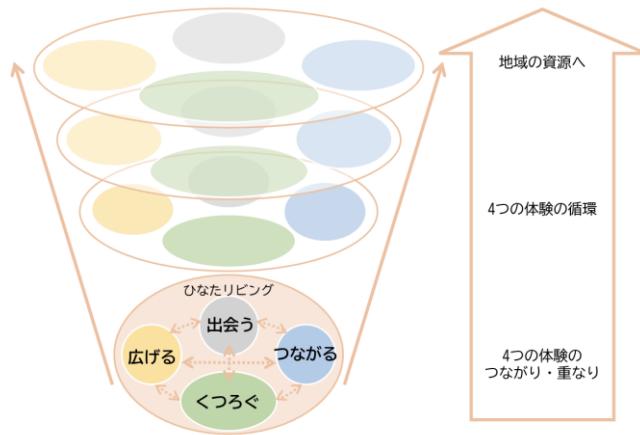
関連する公共施設の今後の方向性

これまでの公共施設は、老朽化や利用率の低下、機能の分散といった課題を抱えていました。新しい図書館複合施設に機能を集約・再編することで、効率的な運営と多世代が利用しやすい環境の実現、地域全体の活性化を目指します。

既存施設名	現在の状況	今後の方向性
図書館	60年以上が経過。スペース・設備不足。利用者減少等。	新施設に機能移転し、スペース拡充・バリアフリー化・開館時間延長等で利便性向上。
健康管理センター	旧館・新館ともに老朽化。母子保健・健診機能、こども家庭センター機能と職員で機能が分散。	「ひなたの森」・健診機能を新施設へ集約し、職員常駐体制を構築。子育て支援・相談機能と一体化。
中央公民館	老朽化・利用率低下。ホール規模・設備が市民ニーズに合っていない。利用団体の固定化・高齢化等。	機能を縮小し、ホールや諸室の一部を新施設や文化交流センター等へ移転。
市民活動支援センター	利用団体の固定化。稼働率低下。令和8（2026）年度以降は市が管理、職員常駐となる。	新施設に機能移転し、交流・活動の拠点として再構築。男女共同参画推進ルームは庁舎等への移転を検討。
東郷地区文化センター	ホールは、ほぼ利用していない。文化財収蔵・保管が中心。老朽化が進行。	ホール機能を新施設へ統合し、文化センターとしての機能は廃止。
地域子育て支援拠点（日向商工会館1階）	商工会館内で実施。利用者が限定的。地域子育て支援事業や屋内遊び場の拡充に関する要望が高い。	新施設に機能移転。地域子育て支援事業を週6日に拡充。屋内遊び場も拡充し、「静」と「動」の遊具を配置。

機能連携と体験の循環

図書館複合施設の多様な機能の連携によって、4つの体験が施設内で重なり合い、市民の新たな挑戦や学び、交流が生まれます。こうした体験の循環が、学びや創造、人と人とのつながりを生み、市民の活動を地域へ広げ、新しい文化や価値を生み出します。その成果が次世代の「出会い」の種となり、持続的な発展につながります。



候補地の選定

候補地の考え方

- 中心市街地で、4,200㎡以上の土地であること。
- 駐車場用地が不足する場合は、近隣施設との共有や新たな土地の購入等も含めた検討を行う。

市有地等の比較検討及び総合評価の結果、**⑤市庁舎隣接地を新たな図書館複合施設の候補地に決定し、今後、土地の取得を行います。**



上記の考え方をもとに、図書館複合施設の以下の候補地について、中心市街地における市有地等の比較検討を行いました。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| ① 警察署跡地 (市有地) | ② 駅東駐車場 (市有地) |
| ③ 中央公民館 (市有地) | ④ 現図書館 (市有地) |
| ⑤ 市庁舎隣接地 (民有地) ※一部市有地含む | |

概算事業費

他自治体の事例等を参考に、現時点での想定される概算事業費は右記のとおりです。なお、これらは今後策定する基本計画や設計段階での精査、社会経済情勢の変動により変更となる可能性があります。

項目	金額
(1)設計・監理・調査費 (基本設計、実施設計、CM業務等含む)	8.3億円
(2)建設費	65.1億円
(3)用地費、備品什器費、現中央公民館解体費	14.6億円
合計	88.0億円

事業手法

想定されるPPP/PFI手法の評価の結果、**従来型手法またはDB方式**の2つの手法について、今後の基本計画の中で検討を進め、最終的な事業手法を決定していきます。

■ 小さな公民連携 (PPP) の導入

より身近で地域に密着した小規模な公民連携による「共創」を推進していきます。

図書館複合施設に導入する基本的な機能

複合施設には図書館機能に加え、子育て支援、生涯学習、市民活動支援、カフェや広場など多様な機能を導入します。多様な世代が主体的に関わり、学び合い・つながり合う空間と、日向の自然や文化を反映したデザインで、地域の価値を高めます。

図書館

市民一人ひとりが自由に学び、知識や情報を得て成長できる「**知の拠点**」を目指します。



那須塩原市図書館
みるる (書架)

子育て支援機能

こどもや子育て世代が安心して過ごすことができ、成長や子育てを支える機能を提供します。



真岡市複合交流拠点
施設monaca
(屋内遊び場)

カフェ・交流・くつろぎ空間

利用者が思い思いに過ごせる場を提供し、施設全体の「**第三の居場所 (サードプレイス)**」としての魅力を高めます。



海南nobinos
(書架スペース)

生涯学習・市民活動機能

市民が主体となって学び直しや新たな活動に挑戦できる「**生涯学習・市民活動の拠点**」を目指します。



小千谷市のと・まち・文化共創拠点
ホントカ。(ものづくりスペース)



みんなの森 ぎふメディア
コスモス (ホール)

その他 (安全・環境・利便性)

すべての利用者が安心して快適に利用できる施設運営と、持続可能な環境配慮を実現します。

施設構成と施設規模

将来にわたって持続可能な施設運営を実現するため、市民の多様な活動を支える十分な空間を確保しつつ、公共施設マネジメントの観点から規模の適正化を図り、新しい図書館複合施設の規模を以下のとおり整理しました。

機能構成イメージ



機能構成と規模

機能区分	想定面積
図書館	約2,500㎡
子育て支援	約1,250㎡
生涯学習・市民活動	約1,250㎡
カフェ・交流・くつろぎ空間	約300㎡
共用部 ※全体の約15%	約950㎡
合計面積	約6,250㎡

今後の進め方

令和8(2026)年度の基本計画策定段階で事業手法の最終的な決定を行い、右記のスケジュールに基づき事業を推進します。

